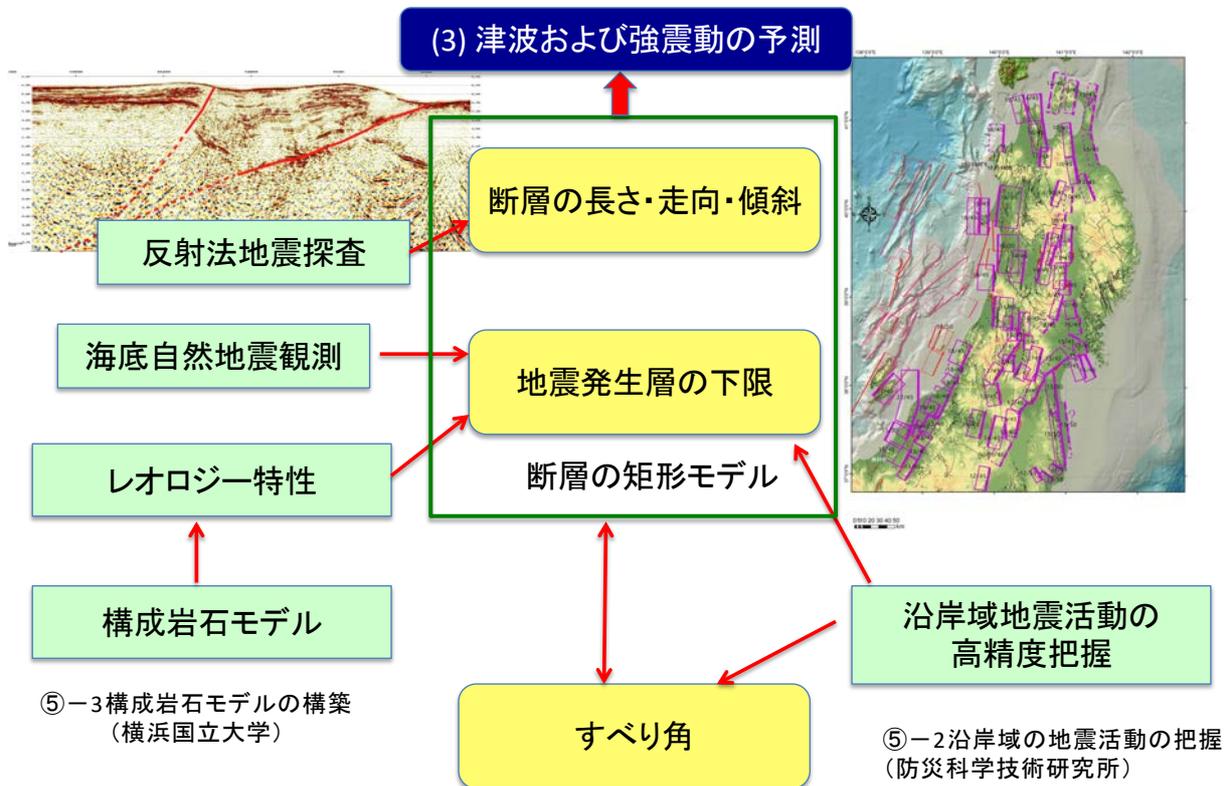


2-5-1 断層モデルの構築

東京大学地震研究所

1

(2)-⑤ 津波波源モデル・震源断層モデルの構築



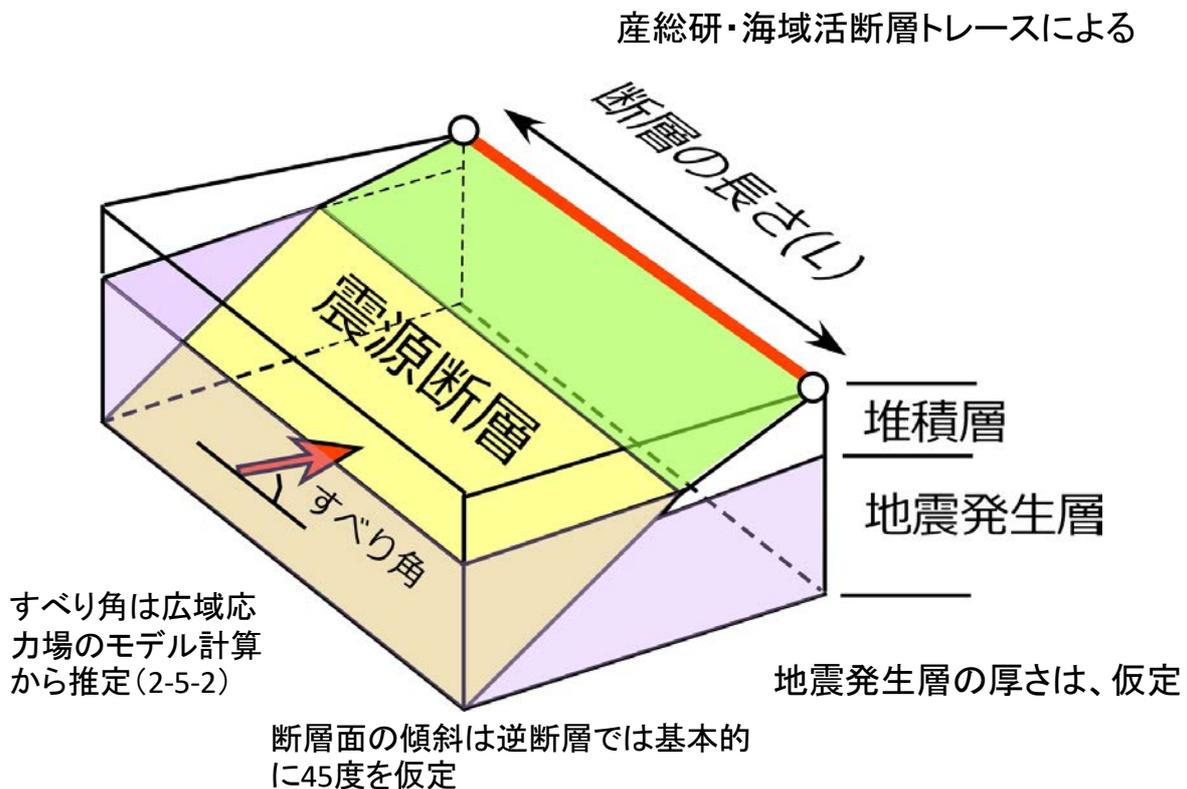
2

研究計画

- (平成25年度) : 佐渡島西方海域から青森沖にいたるひずみ集中帯で収集したデータを始め、石油公団・産総研の反射法地震探査資料・海底地形データを含めて、海域の津波波源・震源断層の主要断層線と傾斜を推定する。
- (平成26年度) : 佐渡海峡～富山トラフ、能登半島西方海域において、収集した沿岸反射法地震探査結果、飛騨山脈北縁から能登半島北方海域の海陸統合構造調査にもとづいて、波源断層および震源断層モデルを構築する。
- (平成27年度) : 若狭湾～鳥取県沖の沿岸海域と能登半島北方の沖合反射法地震探査データをもとに、断層モデルを修正する。
- (平成28年度) : 島根県沿岸から対馬海盆南部、大和海盆において、構造調査データにもとづいて断層モデルを修正する。
- (平成29年度) : 山口県～九州北部沖から対馬に至る海域において、断層モデルを修正し、能登半島沖以西の海域および沿岸の断層モデルを完成させる。
- (平成30年度) : 北海道北部日本海域と沿岸において、断層モデルを修正する。
- (平成31年度) : 北海道南部沖日本海域と沿岸において、断層モデルを修正する。
- (平成32年度) : 東北日本沖と東北日本の沿岸域の断層モデルを修正し、日本海および沿岸域の波源・震源断層モデルを完成させる。

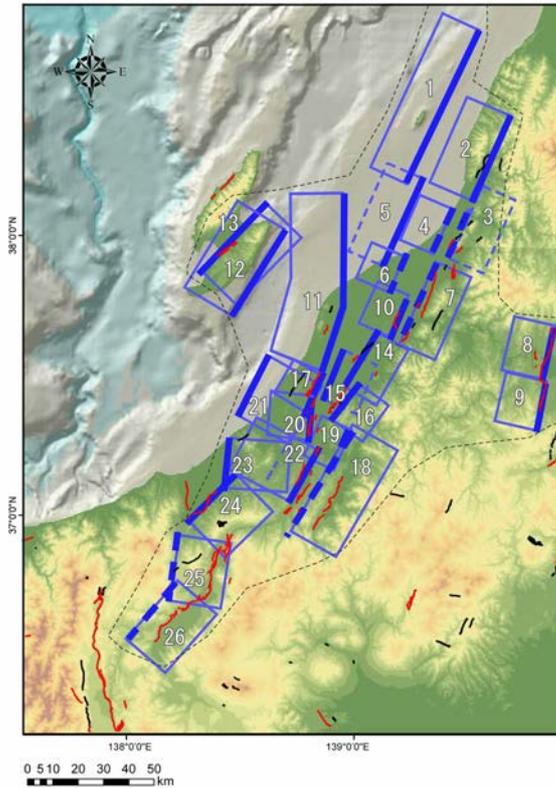
3

矩形モデル ver. 1 の作成



4

新潟地域の断層モデルの例



断層番号	傾斜(度) (型)	D90 (km)	形態	主断層の 先端部の 深さ	文献番号
1	50(B)	18	R	S	6
2	45(B)	18	R	S	7
3	40(C)	18	W	2 km	※1
4	45(B)	18	R	S	8
5	50(B)	18	R	1 km+	8
6	45(B)	18	R	1km+	※1
7	45(B)	12	W	2	※2
8	45(B)	14	R	S	7
9	45(C)	14	R	S	7
10	45(B)	18	R	S	※2
11	45(A)	22	R	S	※2
12	45(B)	22	R	S	※2
13	45(B)	22	R	S	※2
14	40(A)	13	R	1	※2
15	40(B)	13	R	2	※2
16	40(B)	13	R	1 km+	※2
17	40(B)	13	F	S	※2
18	40(C)	13	W	5 km	※2
19	50(A)	13	R	S	9
20	45(B)	15	R	S	※2
21	30(A)	15	F	S	2, ※2
22	30(B)	15	F	S	※2
23	30(B)	15	F	1 km+	※2
24	30(C)	13	S	S	10, 11
25	30(C)	13	W	5 km	※2
26	30(C)	13	W	5 km	12

佐藤(2013): ひずみ集中帯調査 総括報告書

H25年度の予定

- 新潟・富山・石川沖の断層矩形モデルの作成
- 日本列島陸域と日本海域の断層矩形モデル ver. 1の作成